

被災の子供たちに学費・居住費・留学費支援

東北大学OBの有志が近く、東日本大震災で被災した子供たちの学業を支援するプロジェクトを立ち上げる。根底にあるのは、戊辰戦争で敗れながらも若者たちの勉学の機会創出に力を注いだ会津藩士の魂。逆境にあつてなお勉学や技術習得の高い志を捨てていない被災地の若者たちの前途に力添えしたいとの思いだ。

(土樋靖人)

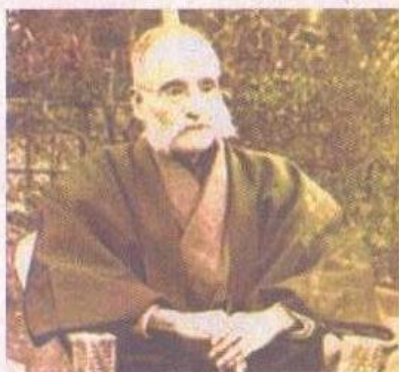
白虎隊の生き残り

飯沼貞吉の孫ら

学業支援プロジェクトを計画しているのは、戊辰戦争のとき会津藩の少年で組織された白虎隊の史実検証などをしている「白虎隊の会」の飯沼一元事務局長(68)と東北大時代の仲間たち。飯沼さんは白虎隊にいた飯沼貞吉(後に貞雄と改名)の孫。貞吉はほかの隊士とともに、福島県会津若松市の飯盛山で自刃を図ったが果たせず、ただ一人生き残った人物だ。

戊辰戦争後、会津藩の人たちは下北半島の斗南(現青森県むつ市)などへ流された。不毛の地で苦しみながら取り組んだのは若者たちに勉学の機会を与えることだった。会津には日新館という藩校があり、「ならぬものはならぬ」という文武両道の教えが白虎隊の士魂を養った。教育熱心さは戊辰戦争直後の不遇時代にも引き継がれ、九州小倉藩などに有能な若者を送り込み、勉学に当たらせた。「何も無いところからチャンスをもたらした若者たちは猛勉強した」と飯沼さん。後に東京帝大総長などを務めた山川健次郎らを輩出した。

晩年の飯沼貞吉
(飯沼一元さん提供)



震災後の今、再現ができないか。飯沼さんらの胸中にこもった思いがうずまき。厳しい暮らしを強いられた会津藩の人たちの姿を被災者に投影し、次代を担う若者たちを少しでも支援していきたいと考えた。飯沼さんは「耐えに耐えて次の時代を切り開くのは東北人ならではの魂。復興を支えるのにその魂は重要。東北の子供たちは地元志向が

次代の礎「会津士魂」

強いが、この機にいったん故郷を離れて勉学に励み、技術を身につけることも大事」と訴える。

プロジェクトを進めるのは「海の会」(仮称)。構想では学費や居住費、留学費も支援し、返済は求めない。資金は飯沼さんと趣旨に賛同する人たちが出し合う。飯沼さんは「難しいのは資金集めより、高い志とやり遂げるという強い意志を持った若い人材を集めること」と話す。応募があればその都度個別に面接し、十分な意思確認をして支援するか判断するという。

「安易な考えではだめ。先々こういうことをやりたいという確固たる意志がない」と飯沼さん。同プロジェクトの決起集会は7月23日、宮城県松島町で開かれる。詳細は☎090・4660・4407(飯沼さん)まで。近くホームページを開発予定。